

平成 22 年度東京文化発信プロジェクト事業の評価結果

平成 24 年 3 月

東京都と東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）は、東京芸術文化評議会の提案に基づき、「東京から世界へ 新たな文化の創造・発信」をキーワードに、平成 20 年 4 月に「東京文化発信プロジェクト」を立ち上げました。以来、東京に集積する人材・施設などの文化資源を最大限に活用しながら、

- 1 世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信
- 2 芸術文化を通じた子供たちの育成
- 3 東京における多様な地域の文化拠点の形成

の3つの目標を目指し、芸術団体やアートNPO等と協力して、幅広い分野の文化事業を展開してきました。

この「東京文化発信プロジェクト」の継続的な改善を目指し、平成 22 年度に実施した事業を対象として、事業評価を実施し、東京芸術文化評議会に提出しましたので、公表します。

東京文化発信プロジェクト 事業評価概要

1 対象

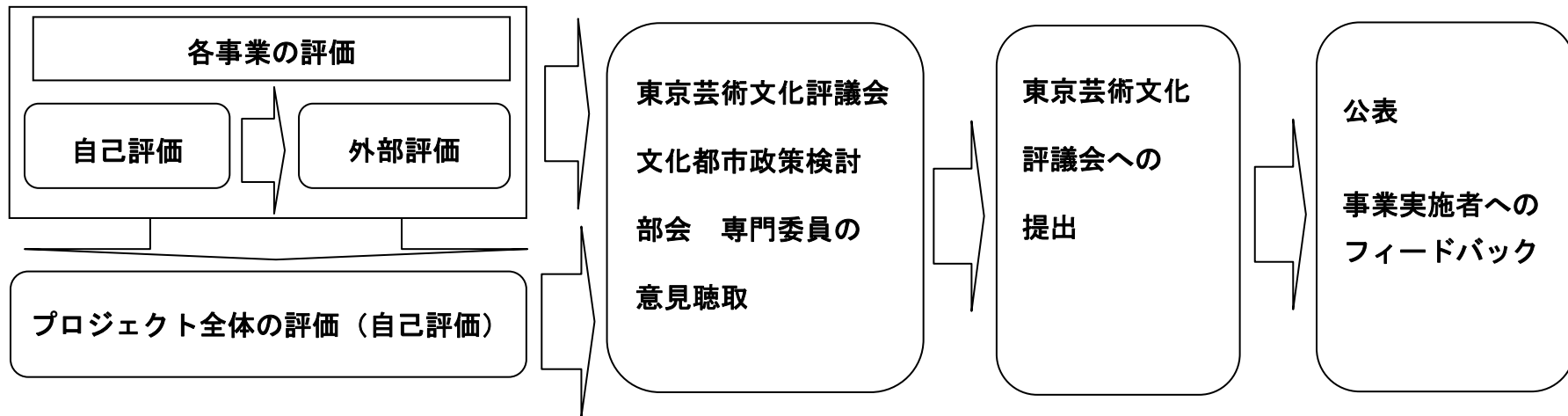
(1) 東京文化発信プロジェクトで実施した事業のうち以下のもの（計 19 事業）

「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業	「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業
【伝統芸能】 ・東京発・伝統WA感動 ・東京大茶会 【演劇】 ・フェスティバル／トーキョー ・芸術監督セレクション 【音楽】 ・Music Weeks in Tokyo ・海外批評家 in レジデンス ・アジア音楽祭 2010 in 東京 ・東京都交響楽団ハーモニーツアー 【美術・映像】 ・現代アート・海外プロモート事業 ・東京アートミーティング トランスフォーメーション ・恵比寿映像祭 【映画】 ・Next Masters Tokyo 2010 ・日本映画海外発信事業	・キッズ伝統芸能体験 ・パフォーマンスキッズ・トーキョー ・ミュージック&リズムス TOKYO KIDS ・TACT フェスティバル ・青少年のための舞台芸術体験プログラム
	「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業 ・東京アートポイント計画

(2) 東京文化発信プロジェクト全体

2 評価の手法

(1) フロー図



(2) 各事業の評価

① 評価者

外部評価者は下表のとおりである（五十音順）。

氏名	肩書き（評価当時）
浅葉 和子	アートプロデューサー
池田 高明	株式会社NHKエンタープライズ
稲葉 郁子	朝日新聞社文化事業部
岩崎 和夫	音楽ライター
岩淵 潤子	慶応義塾大学デジタルメディア・コンテンツ総合研究機構（DMC）教授
内野 儀	東京大学大学院総合文化研究科教授
大月 ヒロ子	有限会社アイデア代表取締役
大西 泰輔	Sony Music Foundation顧問
荻宿 俊文	青山学院大学ヒューマンイノベーション研究センター教授
黒河内 茂	日本伝統音楽振興会代表
後藤 繁雄	京都造形芸術大学芸術学部教授
篠原 弘子	株式会社プレノンアッシュ代表取締役
柴田 克彦	音楽ライター
芹沢 高志	P3 art and environment エグゼクティブ・ディレクター AAF事務局長

曾田 修司	跡見学園女子大学教授
田村 孝子	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ館長
藤本 草	財団法人日本伝統文化振興財団理事長
前田 仁	キリンビバレッジ株式会社代表取締役社長
丸茂 美恵子	日本大学芸術学部教授
村井 良子	有限会社プランニング・ラボ代表取締役
山崎 篤典	鳥取県立いわみ芸術劇場名誉館長
渡辺 弘	さいたま芸術劇場制作部長

② 評価の視点

目標	視点
1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業	1 事業の内容 2 芸術文化活動を支える人材の育成 3 広報（事前・事後） 4 協力・支援の確保 5 その他 6 総括
2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業	1 事業の内容 2 芸術文化活動を担う人材の育成 3から6まで 目標1と同じ
3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業	1 事業の内容 2 パートナーとなる団体の育成 3から6まで 目標1と同じ

東京文化発信プロジェクト 全体評価

【評価の視点】

目標	視点
「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンル ・手段(質が高く独自性のある国際芸術フェスティバルや文化イベントの開催) ・発信(広報、プロモーション) ・社会的インパクト
「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンル ・手段(本物の芸術文化・アーティストに触れる機会の提供) ・発信(広報、プロモーション) ・社会的インパクト
「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンル ・手段(アーティストと市民が協働するアートプログラムを、まちなかで他分野とも連携しながら実施) ・発信(広報、プロモーション) ・社会的インパクト
総括	事業全体の成果と課題、課題に対応するために今後行う取組

【評価】

成 果	<p>○伝統文化、演劇、音楽、美術・映像など、多様な分野で事業を展開し、芸術文化の創造発信、芸術文化を通じた子供たちの育成、東京における多様な地域の文化拠点の形成という3つの目標実現に向けて、着実に成果を挙げた。</p> <p>○フェスティバル分野では、F/T、恵比寿映像祭が、国際的なアート・フェスティバルとして認知され、創造発信のプラットフォームが形成されつつある。</p> <p>○キッズ分野では、キッズ伝統芸能体験、パフォーマンスキッズ・トーキョーが、子供たちの本格的な体験型プログラムとして高い評価を得ている。</p> <p>○アートポイント計画は、着実に地域的な拡がりをみせた。事業運営を担う人材を育成する講座等を実施するなど、戦略的な取組ができている。</p>
-----	---

<p>課 題</p>	<p>○東京文化発信プロジェクト全体としては、プログラムは充実してきているが、海外に十分に認知されるだけの発信力は、まだ、不足している。</p> <p>○フェスティバル分野では、国内外の認知度が高まった事業がある一方、伝統芸能公演、音楽事業などは、まだ国内での存在感を高めていく段階にとどまっている。</p> <p>○キッズ分野は、創造体験を必要とする子供たちにとって充実した内容のものを提供できているが、より多くの子供たちが参加できるようバランスを考える必要がある。</p> <p>○アートポイント計画は、より多くの地域拠点づくりと、事業を支える人材育成が重要であるが、長期的にみると、新たな拠点づくりを進めるためにも、地域に根付いた事業がより自立的に運営される仕組み作りが必要である。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>○文化発信プロジェクト事業も3年を経過したことから、個々のプログラムについても見直しを行い、スクラップ&ビルドにより全体の再構築を図るなど、さらに効果的な事業展開ができるよう取り組んでいく必要がある。</p> <p>○通年で多様な事業を展開しつつも、プロジェクト全体の発信力を高めるため、春や秋に集中的に実施する期間を設定するなど、注目度を高める工夫を図る。</p> <p>○国際招聘プログラムや国際会議により、国際ネットワークの強化を図るとともに、WEBの充実などにより、国内外への情報発信力を高めていく。</p> <p>○フェスティバル分野の伝統芸能、音楽事業については、これまで以上に創造性の高い、発信力のある事業展開を目指し、プログラムの再編を行う。</p> <p>○キッズ分野では、これまでの実践のノウハウを活かしながら、学校等との連携を深めるなど、創造体験の機会を増やす方策を検討していく。また、体験事業の担い手の育成や、他団体との連携などを通じて、さらなる普及拡大に向けた方策も検討していく。</p> <p>○アートポイント計画では、それぞれの地域の特性を活かして、共催団体のより主体的な運営が可能となるよう支援していくとともに、そうした事業展開を通じて、地域の活動を支えるコアとなる人材の育成に重点を置いていく。</p>

事業名	東京発・伝統 WA 感動	事業開始	平成 21 年度
政策目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業 	ジャンル	伝統芸能
事業のねらい	長い歴史の中で生まれ、江戸・東京で受け継がれ発展させてきた伝統的な邦楽、舞踊、演劇、話芸などを若い層を中心に広く普及させるとともに、新しい創造を促し日本独自の文化として世界に発信していく。		
内 容	<p>伝統芸能の魅力の発信、活性化及び普及を目的として、様々なジャンルの伝統芸能を広く取り上げ、一流の実演家の公演に工夫を凝らした企画で紹介するフェスティバルとして実施した。</p> <p>会期及び会場：【邦 楽】 8月20日（金）～22日（日）水天宮ピット（入門）、8月24日（火）国立劇場、 9月4日（土）国立劇場</p> <p>【能と邦楽】 8月31日（火）東京芸術劇場</p> <p>【天台声明】 9月25日（土）国立劇場</p> <p>【民俗芸能】 10月9日（土）国立劇場</p> <p>【郷土芸能】 12月5日（日）狛江エコルマホール</p> <p>来場者数：延べ 6,983 人（邦楽 3,636 人、能と邦楽 812 人、天台声明 1,520 人、民俗芸能 565 人、民俗芸能 450 人）</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>●東京に集積する文化資源を十分に活用し、伝統芸能の多彩な分野にわたって、意欲的で高水準のプログラムを提供した。</p> <p>●子ども向けのワークショップから、愛好家向けのものまで、各観客層の興味・関心に応じた満足度の高い公演が提供された。</p>	<p>■伝統芸能の普及のためのプログラムと、専門家から評価されるプログラムとは必ずしも合致せず、構成には配慮が必要である。</p> <p>■伝統芸能・文化に親しみのない方に、親しみを持ってもらうには、広報等の方法に工夫が必要である。</p>	<p>今後、さらに伝統芸能の魅力を発信していくためには、広報の工夫とともに、より一層注目度の高いプログラムの開発も検討する必要がある。</p>

事業名	東京大茶会	事業開始	平成 20 年度
政策目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業 	ジャンル	伝統芸能
事業のねらい	日本の茶文化についての理解と親しみを深め、今後の茶文化の継承発展と普及に努めるとともに、日本の代表的な伝統文化として、観光を含めた海外発信を図る。		
内 容	<p>伝統ある茶文化を広く都民に普及すること、東京を訪れる観光客に、「お茶の文化」とそれを育んできた「江戸・東京の文化」を紹介することを目的として、東京大茶会を開催した。</p> <p>会期及び会場：10月10日（日）、11日（月・祝） 江戸東京たてもの園 10月16日（土）、17日（日） 浜離宮恩賜庭園</p> <p>来園者数：17,000人（たてもの園 9,800人 浜離宮 7,200人） 茶席参加者数：延べ 6,826人（たてもの園 2,012人 浜離宮 4,814人）</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>●伝統ある「茶文化」を広く都民に普及するために都内の庭園等を利用し、誰でも気軽に参加できる事業を実施した。</p> <p>●本格的な茶席からさまざまな流派によるバラエティに富んだ野点まで、多彩な流派による茶席が催された。</p> <p>●「茶の湯」が培ってきた美意識をわかりやすく提供し、未来を担う子供たちや、日本文化に馴染みのない外国の方々に触れてもらうよい機会となった。</p>	<p>■参加者の増加につなげるため、お茶の文化に親しみの無い層に対しての普及や、広く海外に向けた発信など、広報の方法に工夫が必要である。</p> <p>■参加者に「茶の湯」の世界をより分かりやすく説明し、理解を深める工夫をする必要がある。</p>	<p>今後さらに、茶文化になじみのない層や外国人が参加しやすい方向に力を入れていく。</p>

事業名	フェスティバル／トーキョー	事業開始	平成 20 年度
政策目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業 	ジャンル	演劇
事業のねらい	国際文化創造都市を目指す東京から、世界に向けた舞台芸術の創造と発信を行い、アジアを代表する世界水準の国際舞台フェスティバルとすることを目標とする。		
内 容	<p>東京からの舞台芸術の発信、舞台芸術の裾野の拡大を目的として、世界最先鋭の作品、日本を代表する演出家の作品、国際共同制作による新作など、大規模な国際舞台芸術祭を開催した。</p> <p>会期：10月30日（土）～11月28日（日） 会場：東京芸術劇場、あうるすぽっと、にしすがも創造舎、シアターグリーン プログラム数：26（主催作品 15、公募プログラム 8、参加作品 3） 来場者数：延べ 64,931 人（主催作品 17,909 人、F/T シンポジウム&F/T テアトローク 1,834 人、F/T ステーション 23,282 人、公募プログラム 3,429 人、関連企画 163 人、参加作品 18,314 人）</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ●3回目の開催で、事業が定着するとともに、さらに充実した内容のフェスティバルとなった。 ●オリジナルのプロデュース作品を上演するノウハウも十分蓄積されており、これまでで最大の成果を上げることができた。 ●国内外での注目度も高く、F/T プロデュース作品が世界で上演するスキームが整い、世界の主要なパフォーミングアーツ・フェスティバルの一つとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■パフォーミング・アーツに、普段、馴染みのない多くの人々の認知度を高めていく必要がある。 ■より深くアートについて議論したり体験したりする場づくりや、若い世代の発掘・育成と未来の観客の創出、健全な批評を実現するような取組が必要である。 ■今後大きく事業展開するためには、資金の確保や、アジア地域との連携を考えていく必要がある。 	<p>今後、アジアを代表するフェスティバルとして、より大きく事業展開していくためには、演劇に接する機会が少ない層への普及や、さらなる資金の確保などの課題を検討していく。</p>

事業名	芸術監督セレクション	事業開始	平成 21 年度
政策目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業 	ジャンル	演劇
事業のねらい	日本の首都・東京の劇場として、都内はもちろん、全国の劇場をリードするような斬新で先駆的かつ創造的な企画を実施することで、東京から舞台芸術を世界に発信する。		
内 容	<p>東京芸術劇場の芸術監督である日本を代表する演劇人・野田秀樹氏のセレクションによる舞台芸術作品を上演</p> <p>会期：【Spicy, Sour, and Sweet】 8月13日（金）～15日（日） 【The Blue Dragon—ブルードラゴン】 11月11日（木）～14日（日） 【チェーホフ?!～哀しいテーマに関する滑稽な論考】 1月25日（火）～2月13日（日） 【芸劇 eyes】 5月～2月にかけて若手劇団・団体8団体の公演を実施</p> <p>会場：東京芸術劇場 来場者数：延べ 23,390 人（Spicy, Sour, and Sweet 717 人、The Blue Dragon—ブルードラゴン 3,174 人、チェーホフ?!～哀しいテーマに関する滑稽な論考 4,948 人、芸劇 eyes 14,551 人）</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 芸術監督を迎えて2年目となり、年間を通じて、多彩かつ芸劇ならではのプログラムを実施することが出来た。 ● 個々の公演に対する演劇界からの注目度も高く、また、観客の満足度も高かった。 ● 国際共同制作の着実な成果がみえてきて、幅がひろがってきたとともに、劇場としての個性が形成されつつあり、観客からの認知も拡大している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 演劇に直接関わっている人が強い関心を示す先進性やプロのあいだで高い評価を得ることができる本物志向を強調する戦略も必要である。 	<p>引き続き、新作創造、共同制作などにより、ノウハウを蓄積し、積極的に創造発信を行っていく。</p>

事業名	Music Weeks in Tokyo	事業開始	平成 22 年度
政策目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業 	ジャンル	音楽
事業のねらい	音楽表現の根源である最も人の心に響く声をテーマとする音楽フェスティバルを開催、東京の音楽シーンを活性化し、質の高い音楽を創造することで東京の芸術文化を世界に発信する。		
内 容	<p>東京の音楽と芸術文化シーンを活性化させ、東京から世界へ発信することを目指し、「ハイクオリティな芸術創造」と、「参加性」を柱に、“声”をキー・テーマとした音楽フェスティバルを開催した。</p> <p>会期及び会場：【“スーパー・コーラス・トーキョー”お披露目イベント】 9月3日（金）めぐろパーシモンホール 【『ヴェルディ:レクイエム』“スーパー・コーラス・トーキョー”デビューコンサート】 10月9日（土）東京国際フォーラム、10月11日（月）パルテノン多摩、10月13日（水）サントリーホール 来場者数：延べ約 3,648 人（9/3 756 人 10/9 824 人 10/11 962 人 10/13 1,106 人）</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 公演のレベルの高さに賞賛の声が多数寄せられ、東京における音楽のレベルの高さを十分発揮・発信できた。 ● 世界最高クラスの合唱指揮者の招聘にも独自性があり、合唱界に広がりを与えた。 ● 東京の合唱のプロを目指す新進にとっては、厳しい登竜門となったオーディションを通して、世界に通ずる要求レベルを知り得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 一過性の合唱団ではなく東京都が世界に誇るトップクラスの合唱団として継続的な組織運営が可能となるようにしていく。 ■ 広報の期間が短く、十分な成果をあげられず、参加者が少なかった。 	<p>今後は、実施体制を強化するとともに、事業内容を見直し、さらに創造性・発信力の高い事業に再構築していく。</p>

事業名	海外批評家 in レジデンス	事業開始	平成 20 年度
政策目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業 	ジャンル	音楽
事業のねらい	海外より招聘した著名批評家・ジャーナリストが東京の様々な演奏会を鑑賞し、率直な印象や批評を本国のマスコミ媒体にレポートすることで、現在の東京の音楽シーンを海外に発信すること。		
内 容	<p>東京の音楽シーンを世界へ発信するため、海外から招聘した国際的な音楽批評家が、東京に滞在する間に鑑賞したコンサート等を海外の有カメディアで紹介・批評した。</p> <p>招聘した批評家及び滞在期間：マリー＝オード・ルー(ル・モンド紙記者) 10月8日(金)～16日(土) カルラ・モレーニ(イル・ソーレ・24オーレ紙記者) 10月11日(月)～14日(木)</p> <p>パネルディスカッション：開催日時及び会場 10月12日(火) トッパンホール パネリスト マリー＝オード・ルー(ル・モンド紙記者)、カルラ・モレーニ(イル・ソーレ・24オーレ紙記者)、井上道義(指揮者)、松本良一(読売新聞文化部記者)</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>● 招聘した批評家の自国での記事発表と反響は、輸入に大きく傾き、海外に向けての発信が少ない日本のクラシック音楽シーンにとって、大きな意義があった。</p> <p>● 海外のジャーナリストとの対話から、日本の音楽ジャーナリズムの抱える問題や課題が顕在化し、あらためて問題意識を持つ機会となったことは、貴重な成果であるとともに、国内に一石を投じた。</p>	<p>■ 意図した通りの海外での発信はなされているが、それが目に見えて成果として現れるには時間が必要であるため、海外に東京の音楽シーンを発信していくという課題には、長期的に取り組む必要がある。</p> <p>■ 国内のジャーナリスト、聴衆双方に向けた広報活動の強化が不可欠である。</p>	平成 22 年度で事業終了

事業名	アジア音楽祭2010 in 東京	事業開始	平成22年度
政策目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業 	ジャンル	音楽
事業のねらい	アジアの現代と伝統の音楽に焦点をあて、アジアの人々との文化的交流の促進に一役を担うことを目的とする。		
内容	<p>音楽文化の普及、新たな文化の創出を目的として、10月1日「国際音楽の日」に向け、都内各所で、異なった音楽ジャンルやポップカルチャー、伝統文化などが融合する多様なコンサートを開催した。</p> <p>会期:10月1日(金)～6日(水)</p> <p>会場:東京藝術大学奏楽堂、文京シビックホール、北とぴあ、台東区立旧東京音楽学校奏楽堂、東京芸術劇場</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ●海外から約50名の作曲家、演奏家が来日し、演奏やシンポジウムに参加したのは、大きな成果であった。 ●音楽祭を通して、邦楽器をアピールする機会が多くあり、アジアの作曲家の注目を集めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■準備期間が短く、十分な広報が行えなかった。 ■一般の聴衆にもアピールできる企画も入れたが、音楽祭全体としては専門的な印象がぬぐえず、集客につながらなかった。 	平成22年度で事業終了

事業名	東京都交響楽団ハーモニーツアー	事業開始	平成 20 年度
政策目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業 	ジャンル	音楽
事業のねらい	「首都東京の音楽大使」である東京都交響楽団によるコンサートを、海外や都内の多摩・島しょ地域などを含め幅広く展開し、東京の音楽文化の発信に寄与する。		
内 容	<p>東京の音楽文化の発信、都民に音楽を鑑賞する機会の提供を目的として、東京都交響楽団によるコンサートを海外や多摩・島しょ地域等で実施した。</p> <p>会期及び会場： 都内【三宅村】4月3日(土) 三宅村コミュニティセンター 【小笠原村】5月13日(木) 小笠原小中学校 【小笠原村】5月14日(金) 母島小中学校 【豊島区】8月28日(土) 東京芸術劇場 【日出町】9月19日(日)日の出町公民館 【奥多摩町】9月20日(月) 奥多摩町福祉会館 【檜原村】9月25日(土) やすらぎの里 【瑞穂町】9月26日(日) スカイホール 海外【ベトナム】11月6日(土)～12日(金) ヒルトンホテル、ハノイオペラハウスほか全7公演</p> <p>来場者数：4,660人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>●ベトナムにおいて、現地のオーケストラとのジョイントコンサートや音楽院でのアンサンブル公演を実施し、日越間の文化交流を深めるなど、東京から世界に向けた文化発信を行った。</p> <p>●多摩地域や島しょ地域の公民館・文化施設を活用し、幅広く公演を展開した。プロのオーケストラによる入場無料公演として、普段あまりクラシックになじみのないお客様も音楽に触れる機会を作り、「首都東京の音楽大使」として、東京の音楽文化の発信に寄与することができた。</p>	<p>■更なる東京の音楽文化の活性化、創造力の向上のためには、一過性のものではない、継続的な取組や、より幅広い地域での事業展開、観客参加型の演奏会の実施等による、まちに音楽を根付かせる活動などが求められる。</p> <p>■楽器体験などを組み合わせたり、一緒に歌ったり、演奏するなど、音楽家との交流を図る工夫が必要である。</p>	<p>平成23年度から、Music Weeks in Tokyoに統合</p>

事業名	Trans-Cool TOKYO Contemporary Japanese Art from MOT Collection	事業開始	平成 21 年度
政策目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業 	ジャンル	美術・映像
事業のねらい	東京都現代美術館のコレクションを海外で展示することを通じて、日本の現代美術作品や作家をアジアに発信する。		
内 容	<p>日本の若手作家を中心とした東京都現代美術館の収蔵作品を海外の美術館で紹介する巡回展を実施した。</p> <p>会期：11月19日（金）～2月13日（日） 会場：シンガポール美術館（8Q）／Singapore Art Museum（8Q） 来場者数：13,012人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>●東京都現代美術館のコレクション（寄託作品を含む）によって、1970年代の草間彌生作品を起点にしつつ、国内の若手作家を中心にした構成で、現在の日本の美術状況を概観できる内容となった。</p> <p>●東京都現代美術館のコレクションにより、アジア諸国を巡回展示の形で、「東京のアート／日本のアート」にふれあえる機会を提供できていることは、大変意義があった。</p>	<p>■現代アートの特性を生かし、作品だけでなく、アーティストの存在や活動にも焦点を当てた事業展開が望まれる。</p> <p>■国内的な認知度がまだまだ低い。</p>	<p>事業内容を見直し、東京アートミーティングの関連事業に集約していく。</p>

事業名	東京アートミーティング トランスフォーメーション	事業開始	平成 22 年度
政策目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業 	ジャンル	美術・映像
事業のねらい	現代アートを中心に、デザイン、建築などの異なる表現ジャンル、およびその他の専門領域が会うことで、新しい切り口で現代アートを東京から発信する。		
内 容	<p>動物や機械、想像上の生き物、異なる遺伝子組成をもつ体など、人とそうでないものの間を横断する多様なイメージを、絵画、彫刻、映像、アーカイヴなど 15 カ国 21 組のアーティストの作品で展開し、「変わる事」の可能性と意味を伝えた。文化人類学者と協働する他、東京藝術大学とも連携し、「東京藝大トランス WEEKS」として、将来世代の育成を図るための展示、パフォーマンス、シンポジウムなども開催した。</p> <p>会期:10月29日(金)~1月30日(日)(78日間) 会場:東京都現代美術館 企画展示室 3階、1階、地下2階アトリウム</p> <p>〈共同事業〉 東京藝大トランス WEEKS 会期:10月29日(金)~11月17日(水) 会場:東京藝術大学上野校他</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>●国内で展示の機会の少ない海外アーティストの作品や新進のアーティストも積極的に取り上げたことが話題になり、若い世代の共感を得ることができた。</p> <p>●最前線で活躍する世界のアーティストと、それを読みとく文化人類学の協働は高く評価でき、テーマ設定、展覧会の内容、協働事業の展開など、新たな切り口で現代アートを広く発信できる事業であった。</p>	<p>■アンケートやブログ等によると、今回は、概念的なテーマや人類学という切り口が少し難しい印象を与えた。</p> <p>■学術誌等、期待していたような多分野の専門家からの言及が少なかった。</p>	<p>今後は、より一般の人の理解を得やすい形で、引き続き、他分野と連携した新しい切り口での現代アートを発信していく。</p>

事業名	恵比寿映像祭	事業開始	平成 20 年度
政策目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業 	ジャンル	美術・映像
事業のねらい	映像分野における創造、発信、および継承活動の活性化を促進し、東京の優れた映像芸術文化を国内外に発信することを通じて、文化創造・発信拠点としての東京都および東京都写真美術館の存在感をアピールする。		
内 容	<p>「デイドリーム ビリーバー！！」を総合テーマに、20カ国の作家およびゲストの参加を受け、全館を用い展示、上映、ライブ・イベント、トークなど多彩なプログラムを実施し、多様化する映像表現と、その受け止め方を問い直す国際フェスティバル。隣接する恵比寿ガーデンプレイス・センター広場やザ・ガーデンルームも会場に加え、さらに恵比寿近隣地域の各文化施設との連携により、各種の共催プログラムも実現した。</p> <p>会期：2月18日（金）～27日（日） 出品作品数／展示作品 60 点、上映作品 91 点 来場者数：延べ 46,971 人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>●過去2回の実績をふまえつつ、さらに祝祭感の創出とホスピタリティの向上、国際発信力の強化を目標としてプログラム構成を行った。</p> <p>●オフサイト展示や地域連携プログラムなどが館の外にも広がり、他の文化施設やネットワークとテーマを共有して地域で映像祭を盛り上げ、地域の活性化につながった。</p>	<p>■恵比寿映像祭を毎年行われる「映像の国際フェスティバル」として定着させる。海外に対して本事業を十分アピールする。</p> <p>■参加作家やゲストからの評価は高く、認知度は年々上がっているが、世界各国で国際的なイベントやフェスティバルが多数行われている中で、海外からの注目をさらに集め、集客をはかる体制作りが充分にはできていない。</p>	<p>今後一層、海外からの注目を集め、国際的な映像フェスティバルとして定着させるには、海外広報の充実とともに、外部資金の活用も含め、継続的な運営ができる体制の強化が必要である。</p>

事業名	Next Masters Tokyo 2010	事業開始	平成 22 年度
政策目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業 	ジャンル	映画
事業のねらい	映画作家を目指す有望なアジアの若者を東京に集め、「世界で通用する人材」を育成する。参加者同士、参加者とプロの映画人がネットワークを構築する機会を提供し、東京を「アジアの映画人が集まり交流し、人材が育つ都市」にすることを旨とする。		
内 容	<p>映画作家を目指すアジアの若者を東京に集め、現在世界で活躍するプロからレクチャー、企画合評会を通じて第一線の人材の視線に晒されることで、強烈なインスパイアを受ける体験(コア・プログラム)を促すとともに、作品発表の場への参加を通じて、参加者同士、参加者とプロの間でネットワークを築くことを目的として、「次世代の巨匠」を産むプロジェクトを実施した。</p> <p>会期: 11 月 22 日(月)～28 日(日) 会場: 有楽町朝日スクエア A、有楽町朝日ホール他</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ●「東京フィルメックス」と連携することで、世界最高レベルの映像作家、アジアの映画製作・流通に精通した映画人を講師として迎え、アジアから将来性のある若手映画作家を集めることができた。 ●参加者間、参加者と講師、日本の映画人との間の刺激的な交流が促進され、アジア映画人の人材交流・育成の重要拠点として東京をアピールするための第一歩となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ■公募開始時期・期間、告知方法の改善が必要である。 ■東京での映画芸術の創造や東京からの映像文化の発信という観点から、プログラムの内容の改善を図ることが必要である。 	<p>次回からは、ベルリン国際映画祭（ベルリン・タレント・キャンパス）と提携して、「タレント・キャンパス・トーキョー」として実施し、ネットワークの強化を図る。</p>

事業名	日本映画海外発信事業	事業開始	平成 22 年度
政策目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業 	ジャンル	映画
事業のねらい	日本映画の名作に英語字幕を付し、海外の映画祭等で上映することで、海外における日本文化の一層の普及・浸透を図る。		
内 容	<p>東京フィルムメックスと連携し、日本映画の名作に英語字幕を付し、海外の映画祭へプロモートする。</p> <p>作品：渋谷実「正義派」、「もず」、「好人好日」、「酔っぱらい天国」、「大根と人参」、「現代人」、「本日休診」、「悪女の季節」 （平成23年2月のベルリン国際映画祭及び3月の香港国際映画祭で上映）</p> <p>木下恵介「肖像」、「カルメン純情す」</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ●松竹の黄金期を牽引した監督、渋谷実にスポットを当て、英語字幕を付けて海外の映画祭で紹介した。 ●フィルムセンターや国際交流基金が所蔵する両監督の英語字幕付きプリントも合わせて上映し、渋谷の特徴を際立たせるよう立体的なプログラミング(作品選定)を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■さらなるプログラムの充実を図るため、関係機関との協力関係の強化が必要である。 ■東京発の文化事業としての発信力を高めることが必要である。 	<p>フィルムセンターや国際交流基金等との協力関係を強化し、さらなるプログラムの充実を図る。</p>

事業名	キッズ伝統芸能体験	事業開始	平成 20 年度
政策目標	1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業	ジャンル	伝統芸能
事業のねらい	子供たちが伝統芸能文化を直接、深く体験することで、伝統芸能の世界に触れ、感性を涵養する機会を提供する。このことにより子供たち、ひいては家庭内の伝統芸能に関する興味関心や感性を高め、今後の伝統芸能の継承と発展を支える観客層等の充実を図る。		
内 容	一流の伝統芸能の実演家が子供たちに直接指導し、その成果をひのき舞台上で発表するとともに、講師を中心としたプロの公演の鑑賞会を実施した。 事前体験：【お試し体験】7月24日（土）、25日（日）芸能花伝舎 延べ 1,161 人参加 開講式：9月4日（土）国立能楽堂 563 人参加 稽古：9月～3月 都内各所 発表会：【能楽】3月21日（月） 【日本舞踊・長唄・箏曲】3月29日（火）・30日（水） ※東日本大震災の影響により、平成 23 年 3 月 12 日以後の稽古と発表会は全て中止 稽古参加者数：317 人（能楽 87 人、日本舞踊 72 人、長唄 85 人、箏曲 73 人）		

成 果	課 題	今後の方向性
●参加希望者数が昨年度より増加し、事業に対する理解が深まっている。 ●能・狂言、日本舞踊などの身体表現を伴う芸能から、謡、囃子、長唄、箏曲などの音楽的表現の芸能まで、幅の広い伝統文化への体験学習であり、日本文化に対する総合的な関心につながっている。	■地域ごとに参加者の年齢層にばらつきがあり、小学生から高校生までという幅広い年齢層を対象としているために、クラス分けも一様ではなく、指導者の負担は少なくない。 ■体験した芸能への、また体験外の芸能への関心を持つ受講者の今後の受け皿とするため、流派を超え芸能全体からの視点をもったプログラムを提供すべきである。	現行以上の規模拡大は難しいため、別途子供たちが伝統芸能を体験する機会を増やせるよう、学校との連携を検討していく。

事業名	パフォーマンスキッズ・トーキョー	事業開始	平成 20 年度
政策目標	1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業	ジャンル	演劇
事業のねらい	ダンスや演劇を通じた、子供たちの自主性・創造性・コミュニケーション能力の向上及び感受性の育成		
内 容	ダンスや演劇のプロのアーティストを学校やホールに派遣し、ワークショップを行い、子供たちが主役のオリジナル舞台作品の創作、発表公演を行った。 実施会場数：14ヶ所（ホール6ヶ所、学校8ヶ所、島しょ2カ所） ※東日本大震災の影響により、ルネこだいらで予定していたワークショップ及び公演は中止 ワorkshop参加者数：542人		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ●子供たちの自主性・創造性・コミュニケーション能力の向上などの点において、大きな成果を挙げた。 ●テクニカルスタッフ、コーディネーター、ボランティアスタッフ等にとっても、貴重な機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ■事業の参加者・関係者以外に、広く一般の人たちに知られることは難しい。 ■アーティスト、コーディネーター、ボランティアスタッフなど人材に関する、さらなる育成や発掘が必要である。 	<p>より一層の普及を目指すため、事業の参加者・関係者以外の人に向けたPRも強化していく。また、アーティストやコーディネーターの発掘、育成を図り、事業の新たな担い手を育てていく。</p>

事業名	ミュージック&リズムス TOKYO KIDS	事業開始	平成 20 年度
政策目標	1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業	ジャンル	音楽
事業のねらい	「野外体験・竹楽器作り」「合奏練習」「コンサート」と連続したワークショップを通じて、音楽のすばらしさ、表現する事や皆で音楽を作り出す事の楽しさや難しさを子供達に体験してもらうことで、音楽の魅力に対する理解を促す。		
内 容	<p>東京の自然のなかで、竹を使って自分たちの手で楽器を作り、音楽を生み出していくワークショップを積み重ね、その成果をプロの音楽家とともに発表した。</p> <p>ワークショップ会場及び会期：【高尾の森わくわくビレッジ】8月21日（土）、22日（日）、9月12日（日） 【池尻小学校第2体育館】8月28日（土）、29日（日） 【台場区民センター】9月4日（土）、5日（日）、9月19日（日） 【都庁前 都民広場】9月20日（日・祝）、25日（土）</p> <p>コンサート会場及び会期：9月26日（日）都庁前 都民広場 ワークショップ参加者数：231人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>●学校の音楽の授業や個人対象の音楽教室では体験できない内容になっている。</p> <p>●アンケートより、参加者の満足度の高さや本事業への理解が把握できた。</p>	<p>■3年間開催してきたなかで参加者数が、いずれも定員に達していないため、新規参加者を増やすプロモーション展開の見直しと実践が課題である。</p> <p>■広域にわたって多くの新規参加者に体験してもらうことや関係者達との繋がりを拡大していく</p>	<p>新規参加者を増やすため、事業内容の充実や広報の強化を図るとともに、学校との連携などにより成果の普及を目指す。</p>

事業名	TACT/FESTIVAL TOKYO(国際児童青少年芸術フェスティバル)	事業開始	平成 22 年度
政策目標	1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業	ジャンル	演劇
事業のねらい	子供だけでなく、大人が鑑賞しても楽しめるような質が高く独自性がある海外の舞台作品を、地方都市と連携して招聘し、子供たちが上質な舞台芸術に触れ理解する機会を提供することで、将来の創造的な舞台芸術を支える層を育てていく。		
内 容	夏休み期間中に、家族向け、小さな子ども向けに海外から上質な作品を招聘。大阪をはじめ地方の公共劇場と連携し、東京芸術劇場の小ホール、アトリウム、ロワー広場などで開催した。 期間:8月6日(金)~15日(日) プログラム数:10 入場者数:延べ3,082人		

成 果	課 題	今後の方向性
●いずれの作品も質が高く、観客の反応やアンケートでも同様の評価を得る事ができた。 ●地方の公共劇場が連携し、海外の上質な作品が各地を巡演していくフェスティバルは、他に例がなく、芸劇ならではの取り組みの1つと位置づけられる。	■子供を持つ母親など、的確なターゲットへ向けた情報露出が不十分だった。 ■認知度を高めること、公演の観客やワークショップの参加者を増やすことが課題である。	子供だけでなく、大人も楽しめる質の高い海外の舞台作品が集まるフェスティバルとして継続し、存在感を確立していく。

事業名	青少年のための舞台芸術体験プログラム	事業開始	平成 21 年度
政策目標	1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業	ジャンル	音楽
事業のねらい	質の高い舞台芸術に直接触れる機会を提供することにより、次世代を担う若者の舞台芸術に対する理解を深める一助とする。		
内 容	東京文化会館で行われる国内外の一流のオペラやバレエ、オーケストラ等の最終リハーサルもしくはゲネプロ（総稽古）を、主催者の協力を得て、公演に関心のある青少年に公開した。 会期：5月～3月 実施回数：11 参加総数：1,411人		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ●国内外の一流の芸術団体による公演を通じて、多くの青少年が生舞台芸術公演に気軽に触れることのできる貴重な機会を提供できた。 ●次世代を担う若い人々の、国際人としての教養体験の場として、重要な意義がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■まだまだ認知度が低いため、更なる参加者の拡大に向け、PR にこれまで以上の取り組みが求められる。 ■プログラムの拡充を図るため、従来の鑑賞型にとどまらない参加型のプログラムの提供を検討する必要がある。 ■貸館公演だけでなく、主催事業との連携も図り、より柔軟な事業展開が望まれる。 	プログラムのさらなる充実を図るため、参加型プログラムの実施や、東京文化会館の主催事業との連携を図り、舞台芸術体験の機会の拡充を図る。

事業名	東京アートポイント計画	事業開始	平成 21 年度
政策目標	1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 ③ 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業	ジャンル	
事業のねらい	東京の様々な地域にある人・まち・活動をアートによって結ぶことで東京のさまざまな魅力を創造・発信することを目指す。都内各地に人・まち・活動の接点である「アートポイント」を作り出すことで、人々に新しい発見や創造の契機をもたらす。		
内 容	<p>人・まち・活動がアートを介して結ばれた点を「アートポイント」とし、都内各地に「アートポイント」を作り出すため、東京の特色ある地域資源を活用する「エリアプログラム」、教育・防災など様々な政策分野と関わる「複合型プログラム」、アートポイントの担い手を育成する「人材育成プログラム」を展開した。</p> <p>エリアプログラム：墨東まち見世 2010、Insideout/Tokyo Project、TERATOTERA、岸井大輔プロジェクト「東京の条件 2010」、川俣正・東京インプログレス—隅田川からの眺め、ぐるぐるヤ→ミ→プロジェクト、ひののんフィクション 2010、学生メディアセンターなないろチャンネル</p> <p>複合型プログラム：アーティスト・イン・児童館、イザ！カエルキャラバン！in 東京</p> <p>人材育成プログラム：Tokyo Art Research Lab</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>●1年目の事業実施の中で見えてきた成果や課題、現状を踏まえ、効果的なプログラム構成で事業を実施できた。</p> <p>●各事業の中で新たにボランティア・スタッフ等として主体的に関わろうとする人が増えるとともに、事業同士のネットワーク化によって新たな活動が生み出されている。</p>	<p>■事業が拡大し、その事業に関わる人の数も増えたため、事業の実施主体である事務局メンバー(コア・スタッフ)の業務量が増え、しっかりとした事務局機能を担うメンバーと活動場所の不足が課題となってきた。</p> <p>■事業拡大とともに、各共催団体のコアメンバー、さらには東京アートポイント計画そのものを推進する全体事務局、その双方で業務量が増大している。</p>	<p>全体事務局の円滑な執行体制の整備に努めるとともに、各共催団体の自立的な事務局体制づくりを支援していく。</p>